

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

(開発創造) 社会に関心を持ち、自分で創意工夫できる
(和衷敬愛) おだやかで思いやりをもって人に接することができる
(質実剛健) 心身ともに充実して飾り気がなく、強くたくましく日々を過ごすことができる
その精神のもと、自分の頭で考えることができる、自分を律することができる、自分の言葉や行動で表現することができる、信頼される生徒を育てていく

2 中期的目標

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

- (1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼をかちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する
- ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る
- イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う
- ウ 観点別評価の精度を高める
- ※ 授業アンケート「生徒理解」を 3.25 以上とする(R4 3.27 R5 3.25 R6 3.24)
- ※ 授業アンケート「生徒意識」を 3.25 以上とする(R4 3.17 R5 3.19 R6 3.22)
- (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力 UP につなげる
- ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる
- イ 学力向上委員会と情報委員会で連携し、リーディング GIGA ハイスクール事業機器を活用し ICT 教育の更なる推進について検討していくとともに、グループ学習、発表(伝える)能力育成をめざす授業の推進を行っていく
- ウ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図るため、全校一斉退庁とノークラブデーの徹底を図る
- ※ 学力向上委員会主導のもと、公開授業・授業見学の増加を図る
- ※ リーディング GIGA ハイスクール事業を推し進め、ICT を利用した授業、ペアワークやグループ学習の有効活用を図る
- ※ ストレスチェック職場の健康リスクの結果をもとに、教職員の心身の健康を維持させていく

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む
- ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせ、また遅刻者数を減らす
- イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る
- ウ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める
- ※ 遅刻者数の減少を図り、1500 以下とする (R4 1463 R5 1526 R6 1385)
- ※ 生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率 85%を維持する(R4 82% R5 81% R6 89%)
- ※ 部活動加入率を 65%とする(R4 58% R5 59% R6 58%)
- ※ ニュージーランドと台湾の姉妹校との相互交流、韓国の大学との高大連携による語学研修を継続
- ※ 地域の国際関連施設と語学を通じた連携を継続
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における国際交流関連の肯定率をコロナ前の 90%に戻す(R4 64% R5 66% R6 67%)
- (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく
- ア 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
- イ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む
- ウ 進学講習を組織的に実施する
- ※ 外部指標のある教材や模擬試験なども活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく
- ※ 大学進学希望者の現役合格率を 90%以上とする (R4 88% R5 89% R6 89%)
- (3) 安全で安心な学校づくりを行う
- ア 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催)
- イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、探究や HR の充実を図る
- ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進し支援の充実を図る
- エ 生徒にとって学校が安全で安心できる居場所となるために、専門家である SC や SSW 等外部人材の活用を図る
- ※ 安全で安心な学校づくりを行うための教職員研修を継続
- ※ 要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

- (1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける
- ア 中学校訪問や中高連絡会において、生徒の出身中学校との連携を強化する
- イ 住吉区との防災連携を継続し、地域の防災活動と連携していく
- ウ 学校説明会などで本校の良さを知ってもらう取組みを実施する
- エ 「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する
- ※ 学校ホームページを使った情報発信やメールマガジンの発行を継続し、個人情報に留意し、動画配信なども検討する
- ※ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定率 90%を維持する(R4 88% R5 87% R6 90.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
＜教職員向け学校教育自己診断＞ （肯定的回答率が高い項目） 「各教科で生徒の実態をふまえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善」97.9% 「生徒の人権を尊重し、日々の教育活動」93.8% 「学校行事は生徒主体で工夫・改善に取り組んでいる」90.0% →授業改善や人権を尊重した指導、行事運営に関する項目において、教職員が日々の取組みに一定の成果と手応えを感じている様子がうかがえる。 （肯定的回答率が低い項目） 「施設・設備の清掃など環境整備が行き届いている」 34.0% 「新しい教育課程は必要な学力をつけ、時間的にも十分」 52.0% 「生徒の興味・関心・適性に応じたきめ細かい進路指導」 70.2% →施設の老朽化については、本校の努力のみで解決が困難な側面もあるが、生徒・教職員が主体となった美化活動や環境整備を継続的に行うことで、学習環境の質の向上に努めていく必要がある。併せて、教育課程の在り方や進路指導の方法についても、社会の変化や生徒の実態を踏まえ、内容や体制のさらなる充実に向けて検討を進めていくことが求められる。 ＜生徒向け学校教育自己診断＞ （肯定的回答率が高い項目） 「1人1台端末(Chromebook)を活用している」 95.8% 「ホームルーム・総合的な探究の時間の活動は活発である」 91.4% 「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」 90.9% →この3年 LGH として様々な取組みを進めてきた成果がうかがわれる。行事運営については生徒も非常に肯定的である。 （肯定的回答率が低い項目） 「国際交流に興味を持っている」 66.4% 「学校に気軽に相談できる先生がいる」 66.9% 「施設・設備の環境整備で気持ちよく生活できる」 67.1% →本校においては、新型コロナウイルス感染症流行以前には、国際交流に関する項目の肯定的回答率が90%を超えていたが、現在は当時の水準まで回復していない状況がある。その背景として、インターネット環境の普及により、日常的に海外と容易につながることが可能となり、海外に関する情報に触れること自体が特別なものではなくなってきていることが考えられる。加えて、生徒の興味・関心が多様化・細分化しており、国際交流という分野が必ずしも一律に高い関心を集めにくくなっていることも要因の一つであると考えられる。 ＜保護者向け学校教育自己診断＞ （肯定的回答率が高い項目） 「文化祭は楽しく行えるよう工夫されていた」 91.4% 「体育祭は楽しく行えるよう工夫されていた」 89.4% 「阪南高校に入学させてよかった」 89.2% →学校行事への評価が高く、入学満足度も高い。 （悪化幅が大きい項目） 「学校は家庭への連絡や意思疎通をしっかりと行っている」 64.4%(－10.9pt) 「HP やメルマガの情報提供」 73.1%(－7.1pt) 「学校生活についての先生の指導には納得できる」 69.8%(－6.5pt) →家庭連絡や意思疎通をはじめとする保護者とのコミュニケーションに関する項目において、肯定的回答率が前年度より低下している。このことから、学校の指導や取組みについて、その趣旨や背景、ねらいをより丁寧に説明し、保護者との対話を重ねていく必要があると考える。また、保護者アンケートの回答数は全体の約3分の1にとどまっており、学校評価としての信頼性の面で課題がある。アンケート結果を今後の教育活動の改善により効果的に生かすためにも、保護者が回答しやすい環境づくりや周知方法の工夫を通して、回答数の向上を図る必要がある。	【第1回 6月19日実施】 ・学校の教育目標について、短い言葉でも学校を表現できるような印象に残る教育目標が良い。自分の将来を自分の力で切り拓く力をつける目標があってもよいのではないだろうか。 ・キャリア教育の充実、生徒の進路設定をケアする教育に努めていただきたい。 ・教員には今後必要とされる、理想とされる授業像のイメージを変革していただきたい。 ・地域連携において地域と合同で防災訓練を試みてはどうだろうか。 ・国際交流も継続して充実したものにしてほしい。 ・部活動時間、学習時間、(教員の)労働時間等、うまくバランスを取りながら、部活動の充実、入部率の上昇に努めていただきたい。 ・生徒が引き込まれる、楽しくもわかりやすい授業であった。 【第2回 10月9日実施】 ・令和10年度より実施される特色枠入試について、阪南高校として その裏にある「求める生徒像」が伝わるよう説明の工夫をお願いしたい。 ・国際交流への取組みについて、今後も積極的に取り組んでほしい。 ・生徒が様々な活動に対して主体的に取り組むことができるように支援してもらいたい。 ・小学校・中学校では渡日生徒が増えている。高校での対応状況を教えてもらいたい。 【第3回 2月 3日実施】 ・令和6年度・7年度にわたり、計画的に授業改善に取り組んでいる様子がよく分かった。授業見学では、〈めあて → 見通し → 考察 → 定着〉という流れが工夫されており、授業展開も分かりやすかった。小学校で実践されている授業スタイルが、中学校・高等学校へとつながっていると感じた。 ・1人1台端末の活用率が高いが、ICT の「C(Communication)」がどの程度図られているかについては課題を感じる。端末の使用自体が目的化しないよう留意する必要がある。教員によって ICT 活用のスキルや意欲に差が見られるため、全体の底上げが求められる。教員の中にリーダー的存在を育成し、ICT 活用が苦手な教員にもその有効性を理解してもらうことが必要である。また、ICT 活用によって学力低下を招くことがないよう、指導方法の検討も重要である。 ・小中高生の自死や、SNS 上でのいじめ動画等の問題について、高校ではどのように取り組んでいるのかが話題となった。教員は常にアンテナを高く持つ必要がある。当事者への対応だけでなく、傍観者とならないよう、生徒全体に対する働きかけも重要である。 ・学校だけにすべてを任せるのではなく、家庭での指導の重要性についても意見が出された。自分の子どもが何をしているのか把握できていない状況は避けるべきであり、学校に任せきりにするのではなく、保護者自身も考え、関わっていく必要がある。 ・地域連携の一環として、阪南高校が地域の防災拠点であることを踏まえ、文化祭において防災に関する展示等を行うことが検討されている。実施にあたっては、関係者の協力をお願いしたいとの提案があった。

府立阪南高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 教員相互に高めあう学校	(1) 日々の授業が、「わか りたい」「できるように なりたい」と思う生徒 の思いに応え、その ことで教員への信頼 をかちとる場であるこ とから、「教科指導」 が最大の「生徒指導」 であるとの教員の意 識改革とその自覚に 裏打ちされた教育活 動を展開する	(1) ・リーディング GIGA ハイスクール研究指定校とし て1人1台端末やプロジェクト等の ICT 機器を活 用し、生徒にとってわかりやすい授業をめざすと ともに、生徒が主体的に活動できる能力を育成 する ・生徒の学習活動を肯定的に評価し、興味関心を 引き出すため教材や指導法を研究する ・教科・学年が連携して、宿題や予習・復習等の 課題を工夫し、家庭学習の習慣確立と基礎学力 の定着を図る	(1) ・教職員向け学校教育自己診断 「リーディング GIGA ハイスクール」 関連の肯定率 80%以上[72%] ・生徒向け学校教育自己診断 「1人1台端末を活用している 」 肯定的評価 90%以上を維持[94.1%] ・授業アンケート 「生徒理解」 前年度以上 [3.24] ・授業アンケート 「生徒意識」 前年度以上 [3.22] ・生徒向け学校教育自己診断 「教え方に工夫がありわかりやすい授 業が多い」 前年度以上[70.2%] ・教職員向け学校教育自己診断 「各教科で生徒の実態をふまえ、常に 指導方法・評価方法の工夫・改善を行 っている」 前年度以上[87.5%] ・放課後や自宅等での学習時間、平日 平均 30 分以上	(1) ・リーディング GIGA ハイスクール関連肯定率 「生徒1人1台端末の活用は、生徒の学習活 動等の充実につながっていますか」 60% 「電子黒板機能付きプロジェクトの活用は、生 徒の学習活動等の充実につながっています か」64% (△) ・生徒向け学校教育自己診断 「1人1台端 末を活用している 」 95.8% (○) 教員側としては、さまざまな機器を活用するこ とが生徒の学習の充実につながっているの かについて、まだ手探りの段階であると考え られる。 ・授業アンケート 「生徒理解」 3.26 で前年度以上 (○) ・授業アンケート 「生徒意識」 3.23 で前年度以上 (○) ・生徒向け学校教育自己診断 「教え方に工夫がありわかりやすい授業が 多い」 74.3%で前年度以上 (○) ・教職員向け学校教育自己診断 「各教科で生徒の実態をふまえ、常に指導方 法・評価方法の工夫・改善を行っている」 97.9%で前年度より大幅に向上 (◎) 教員の授業改善に対する取組みや意識は、 この2年間で大きく向上した。授業改善チー ムの働きが影響していると考えられる。 ・平日 1年 21 分 2年 18 分 (△) 授業や学校生活を通して、生徒が自主的に 学習に取り組む態度を育成するとともに、家 庭学習の重要性を生徒自身が自覚できるよ うな働きかけが必要である。
	(2) 教員同士が高めあう 意識を持ち、モラール の向上を図り、授業 力 UP につなげる	(2) ・教員の ICT 活用を促進するため、活用方法の 情報報共有をはかる ・研究授業や日常的な授業見学を実施し、授業 改善に取り組む ・教員の健康管理・働き方改革の観点から、学校 部活動方針を遵守し一斉退庁日の実施を徹底 する	(2) ・研究授業・授業見学の実施状況 ・ストレスチェック職場の健康リスクの平 均値 100 以下を維持 [95] ・教員の月平均残業時間を前年度以下 [24.4 時間]	(2) ・公開授業週間を2回設定し、研究授業・授業 見学を重ねることで、授業改善に主体的に取り 組む意識づくりを行った。 (○) ・ストレスチェック職場の健康リスクの平均値 100 以下を維持 103 (△) ストレスチェックによると、仕事量の量的負担 や質的負担を感じている人が少なからずい る。同僚性を高めることにより負担の軽減に つなげていきたい。またストレスチェックによ ると職場環境(「私の職場は作業環境はよくない」) の偏差値が 20(全体平均 41)と極めて 低く結果に大きく影響を与えている。校舎等 の老朽化等はどうにもならないが、整理整頓 や清掃を徹底させるなど、できる工夫をして いく必要がある。 ・教員の月平均残業時間 21.7 時間 (○) 学校全体としては残業時間は減少している が、クラブ指導を熱心に取り組む教員を中心 に、月 80 時間を超える教員がいる。部活動方 針の遵守を徹底し、引き続き適正な学校運営 を図っていく。

府立阪南高等学校

2 生徒が学校生活を充実させることができる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む	(1) ・遅刻者数を減らす ・ノークラブデーを確立し、教職員だけでなく生徒の負担も軽減しつつ、部活動への入部を奨励し生徒の自立心や社会性を育てる ・国際交流の機会を充実させる	(1) ・遅刻者数 1500 名以下を維持 [1385 名] ・部活動入部率を前年度以上[57.6%] ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」前年度以上[66.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方を考える機会がある」前年度以上[88.8%]	(1) ・遅刻者数 1623 名 (△) ・部活動入部率 62.1% (○) ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流に興味を持っている」66.4% (○) 韓国への語学研修および台湾の姉妹校への訪問を実施した。ニュージーランドの姉妹校への訪問については、今年度は事情により実施しなかったが、次年度の実施を予定している。また、11 月には台湾の姉妹校の生徒ならびにインドネシアの生徒を受け入れた。 ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方を考える機会がある」89.5% (○)
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・生徒の進路希望に応じた各種説明会等の実施 ・大学進学希望を実現するために、一般入試まであきらめない意識を持たせる ・進学講習を組織的に実施する	(2) ・進路未決定者をなくす ・4年制大学希望者の現役合格率 80%以上 [88.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力が付く」前年度以上 [79.5%] ・保護者向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がついている」前年度以上[55.1%]	(2) ・進路未決定者 0名 ・4年制大学希望者の現役合格率 91.2% ・生徒向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力が付く」82.8% (○) ・保護者向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がついている」63.6% (◎) 次年度に向けて、授業のさらなる充実を図るとともに、生徒の自主的に学習に向かう態度を育成し、進学講習等を組織的に展開するなど、生徒の進路実現を学校全体で支える体制を一層整えていきたい。
	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学校生活の決まりについて納得感のある指導を行い、生徒の学校生活を支援する ・教育相談委員会を充実させ、SC や SSW とともに生徒が相談しやすい環境作りに努める ・人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する ・いじめ・体罰・ハラスメントが0となるように、教職員・生徒の人権意識を高めるとともに、万一事案が発生した場合は組織的に対応する	(3) ・生徒向け学校教育自己診断「学校生活について先生の指導には納得できる」前年度以上[64.1%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校に気軽に相談できる先生がいる」前年度以上[64.9%] ・教職員向け学校教育自己診断「生徒の人権を尊重し、日々教育活動を行っている」90%以上を維持[91.7%] ・いじめ重大事態・体罰・ハラスメントを0とする	(3) ・生徒向け学校教育自己診断「学校生活について先生の指導には納得できる」69.5% (◎) ・生徒向け学校教育自己診断「学校に気軽に相談できる先生がいる」66.9% (○) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒の人権を尊重し、日々教育活動を行っている」93.8% (○) ・いじめ重大事態・体罰・ハラスメント0 (○) いじめの重大事態、体罰、ハラスメントはいずれもゼロであったが、表面化していない事案が存在する可能性もあるという意識を持ち、常にアンテナを張りながら教育活動に携わっていかなければならない。

府立阪南高等学校

3 保護者や外部機関と連携する学校	(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける	(1) ・授業をはじめ生徒会活動や部活動、教職員研修等を通じて、地元の学校や自治体等と交流を図る ・中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し生徒の出身中学校との連携を強化する ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施し、生徒会役員やクラブ員が中心となって運営していく ・メールマガジン・学校ブログを通じて、「お知らせ」以外にも生徒の学校生活を情報発信していく ・「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する ・生徒・保護者が「阪南高校に入学させてよかった / してよかった」 と思える学校づくりに全教職員が取り組む	(1) ・地域との交流の実施状況 地域との連携 学期に1回 計3回以上[6回] 地域小中学校との交流 学期に1回 計3回以上[6回] ・体験入学や学校説明会参加者のアンケート肯定率 90%を維持[97.8%] ・学校教育自己診断 「学校のホームページやメルマガからいろいろ情報提供がある」 保護者向け 80%維持 [80.1%] 生徒向け 90%維持 [90.7%] ・学校教育自己診断 「阪南高校に入学させてよかった / してよかった」 保護者向け 90%維持 [90.4%] 生徒向け 80%維持 [80.8%]	(1) ・地域の人権教育研究協議会の学習会や連合会に参加 3回 小・中学校との研究授業への相互参加 中学校への出前授等 4回 ・地域活動協議会の広報誌(年4回発行)の学校だよりの欄に地域の小学校・中学校とともに記事を掲載 ・生徒登校時、地域の朝の見守り活動と連携し生徒や地域の安全安心に努めている (○) ・体験入学や学校説明会参加者のアンケート肯定率 95.7% (○) ・学校教育自己診断 「学校のホームページやメルマガからいろいろ情報提供がある」 (△) 保護者向け 73.0% 生徒向け 88.3% 担当者の変更に伴い、メルマガで発信する情報を精査したことが主な要因と考えられる。数値は低下したものの、必要なときに必要な情報を取得できる体制は、今後も堅持していきたい。 ・学校教育自己診断 「阪南高校に入学させてよかった / してよかった」 (○) 保護者向け 89.2% 生徒向け 78.8% 学校として最も重視している数値であるが、今回は保護者・生徒ともに目標値をわずかに下回る結果となった。今後は、保護者・生徒のニーズを改めて丁寧に把握し、教育活動のさらなる充実につなげていきたい。